

# 世界の ドクターズファイル - No.2 -

今回は韓国で数々の著書を出し、6月に日本で発売された『スレッドリフトのセオリー』の著書でもあるキム・ボンチョル先生とオ・スンミン先生にインタビューを行いました。お2人は国内外での学会をはじめ多くの国で講演をされており、日本でも第104回日本美容外科学会(JSAS)にて招聘講演のご経験もごございます。グローバルにご活躍されるお2人に、著書のお話や韓国美容医療の現状について伺いました。

お2人の著書の日本語版が出版されましたが、韓国で本書を出版するに至った経緯をお聞かせいただけますでしょうか。

キム・ボンチョル先生  
(以下、キム) V 私自身がスレッドリフト施術を学んでいたとき、科学的な根拠や施術の標準的なプロトコルが示されている教科書がありませんでした。また、学会での講演や診察の際にビフォーアフターを提示し、スレッドリフトの効果を分かりやすく説明したいという思いもありました。



オ・スンミン先生(以下、オ) V それに加えて一部のドクターたちから

スレッドリフト施術の効果に関し否定的な意見があったため、本を執筆することによってそれらを払拭したい気持ちもありました。

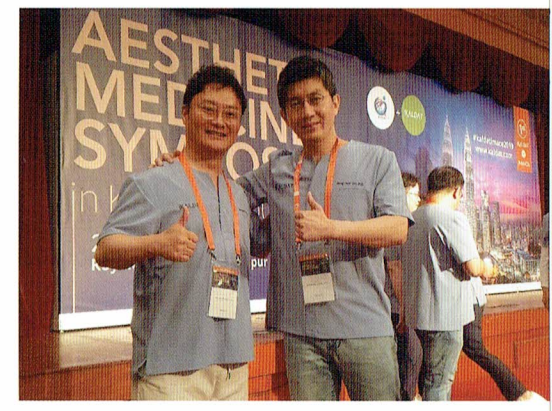
韓国では以前からスレッドリフト施術が盛んに行われてきましたが、どのように変化してきたのでしょうか。また現在のトレンドなどについてもお聞かせください。

キム V 本書の中でも紹介されていますが、コグの形の変化としてはモノ(コグなし) ↓ カuttingコグ ↓ 成型コグ ↓ コーン型と変化してきており、施術法の変化としては、モノスレッドの単純挿入 ↓ 双方向性コグスレッドの挿入 ↓ 筋膜固定法と変化してきました。ただ、筋膜固定法は施術の難易度が高いため、双方向性コグスレッドやコーン型スレッドでの施術がポピュラーになっています。

今後の課題としては、リフトアップの持続期間が挙げられるでしょう。スレッドの素材が変化していくというよりは、コグの形の変化であるとか、組織をしっかりと支えられるように固定点を補強する方法などで持

お2人はクリニック経営のご経験もありますが、クリニックを経営していく上でどのような点が重要であるとお考えですか。

キム V 私はクリニック経営も事業の1つと考えています。そのためには持続可能な患者様の誘致が重要であり、広告や割引キャンペーンによる一時的な患者様の誘致ではあまり長続きはしないと思います。特にリフトアップ施術に関しては、それぞれの患者様に合った施術内容や予想される結果などを正直に伝えることで、患者様の満足度や信頼関係につながります。生涯顧客化を目指し努



続期間を延ばせるのではないかと考えています。

力することが重要であると考えています。  
オ V 1つの分野に秀でた専門家が成功するというよりは、施術者の技術・マーケティング・スタッフ管理・会計・経営理念などさまざまな領域での能力が必要ではないでしょうか。さらに、一連のプロセスすべてが重要であり、いくら施術の技術が優れていたとしても前後の処置、患者様へのケアや対応が不十分であれば成功する可能性は低いと思います。

流行りの移り変わりが激しい美容業界で、知識や技術のアップデートのためにどのようなことが重要だとお考えですか。

オ V 私は、学会などで講義をする際に演者自身が最も多くの知識を得ることができると考えています。今まで講義をする機会が多くありましたが、その準備段階で自分にとって曖昧だった部分や足りない部分などに気づくことができ、論文検索や実際の実験によって多くの知見を得ることができました。こういった経験が自然と知識や技術のアップデートにつながったと思います。

最後に、日本の美容医療に携わる医師達に一言いただけますでしょうか。

キム V まず、多くの日本のドクターが私たちの本に関心を寄せてくださっていると聞き、とても光栄に思います。今年はAMWCが日本で開催されますが、このような国際的な学会が今後も頻繁に日本で開催されることを願っています。美容医療も国の垣根を越えて発展していく時代



スレッドリフトの知識を深めたいドクター必読の一冊！  
スレッドリフトのセオリー - PINCH解剖学とテクニック -  
監訳: ドクターズバククリニック 鈴木芳郎, 飯尾掲載外科クリニック 飯尾礼美  
著書: Bongcheol Kim, Seungmin Oh, Wonsug Jung  
翻訳: 株式会社 HaMinT

であり、海外のドクターと交流することによって新たなトレンドを知る貴重な機会になることでしょう。私たちの著書もその一翼を担うことができれば幸いです。  
オ V 私もまず『スレッドリフトのセオリー』の日本語版に多くのドクターが関心を寄せてくださっていると聞き、感謝の意を表したいと思えます。今後、学会等で日本のドクターにお会いする機会があれば、スレッドリフトや美容医療について幅広く議論したいと思っています。



Dr. Seungmin Oh (オ・スンミン)

ソウル大学医学部卒業。医師免許取得後、ソウル大学病院で研修医として勤務。ソウルの清潭(チョンダム)洞にあるON clinicにて6年間院長を務めた後、現在はMAILIN CLINICにて主にアンチエイジング治療に携わる。クリニックでは、リフトアップ施術が半数以上を占めている。



Dr. Bongcheol Kim (キム・ボンチョル)

全南大学医学部卒業。医師免許取得後、サムソンソウル病院で研修医として勤務。現在はラマルクリニック製水(イス)院の院長として、病院を運営して13年目になる。クリニックでは、リフトアップ施術(ウルセラ、Silhouette Soft)・注入施術(ヒアルロン酸フィラー、ボツリヌストキシン注射)・美白レーザー施術を多く行っている。